

5 各まちづくりの基本方針に基づくアクションプラン

(1) 都市圏北部の拠点として、活力にあふれるまちづくり

都市圏北部の拠点として生活サービス機能の充実や、安佐北区の産業の中心となる中小・小規模事業者の振興を図り、雇用を創出することで地域経済を活性化させ、人口の流出に歯止めを掛けるとともに、多くの人が集い、活力にあふれるにぎわいのあるまちづくりを進める。

アクションプラン

区全体

●安佐市民病院の機能分化整備を契機とした地域の活性化

安佐市民病院の機能分化に伴い、生活サービス機能の充実や人口減少に歯止めを掛けるため、広島県北部の結節点として、バス路線の再編や跡地の活用について地域と一体となって検討し、区全体の活性化を図ります。

○公営住宅の活用や団地の再活性化、地域中小・小規模事業者の振興を兼ねたプランの策定

広島市のベッドタウンから「職住近接」を積極的に推進するための産官学連携組織の立ち上げや起業意欲のある若者を呼び込み、地区の拠点機能の向上を目指します。

○かわなみサイクリングロードを活用したにぎわいの創出

サイクリングを通じて、安佐北区を流れる太田川上流のかわなみの自然や四季折々の景色を楽しんでもらい、効果的にPRすることなどにより、来訪者の増加や地域経済の活性化を目指します。

○JR芸備線を中心とした他市との連携

JR芸備線を中心に、三次市（もののけミュージアム）や安芸高田市（田んぼアート）と連携を図り、JR芸備線利用の観光客の増加を図ります。

白木地区

◆ネコ駅長りょうまを通じたまちづくり

全国から約2万人を呼び込み、交通安全運動や祭りにも貢献したJR芸備線志和口駅のネコ駅長りょうまの活躍や功績を伝え、地域やJR芸備線の活性化につなげます。

高陽地区

◆高陽地区のにぎわい創出

少子化・高齢化により地域活動が衰退し、コミュニティの希薄化などの課題を抱える「高陽地区」において、地域団体のまちづくり活動に将来を担う若者の発想や行動力を引き入れ、学校・企業等との連携を促進しながら、幅広い世代や団体による地域が主体となったまちづくりの定着・活性化を図り、にぎわいを創出します。

◆笑楽笑楽ふれあいフェスタの開催

笑顔が笑顔を生むイベントとして、笑楽笑楽ふれあいフェスタを開催・定着させることにより毎年幼児からご年配まで一堂に出会える機会を提供し、高陽地区の活性化を図ります。

◆狩留家地区の活性化

狩留家活性化ビジョンを踏まえ、当地区の核となる拠点づくりや自然・歴史等を活用した各種ソフト事業に取り組み、地区の活性化を図ります。

◇高陽青年会（仮称）の発足

高陽地区に居住する若者や地区で働く若者が集まり、高陽地区内の自治会や各種団体などの地域と交流する行事を企画運営する高陽青年会（仮称）を立ち上げ、高陽地区の新たなにぎわいを創出する事業に取り組むとともに、まちづくりの担い手の育成を図ります。

可部地区

◆可部線電化延伸を契機としたまちづくり

平成29年（2017年）3月4日、JR可部線が電化延伸開業し、大きく様変わりしている安佐北区可部地域において、地域への来訪者の増加を図るための取組など、JR可部線を生かした新たなまちづくりを展開します。

◇「可部の町めぐり」を中心とした可部の町の活性化

楽しいイベントを開催し、お土産の販売や地酒の味利き、芸能披露、歌声喫茶、子どもの遊び等で若者から高齢者まで多くの人を惹きつけます。

安佐地区

◆なないろマルシェ

個別で活動している団体を集め、親子で一緒に楽しめる催し物、コンサート、屋台などを内容としたイベントを開催し、団体間の連携の強化を図るとともに、地域の活性化に取り組みます。

(2) 支え合いの心を育み、住み続けられるまちづくり

住民の誰もが住み慣れた地域で、互いに支え合いながら暮らし続けることができる「地域共生社会」を実現するため、高齢者の見守り活動や子どもの居場所づくりなどの課題に取り組む地域コミュニティの活性化と担い手の確保を図り、支え合い、みんなが住み続けられるまちづくりを進める。

アクションプラン

区全体

●地域交流コミュニティサロンの活性化

各地域において、地域の多世代が気軽に参加し交流できる地域コミュニティサロンを展開し、定期的なイベントの開催や健康ウォーキング、百歳体操、健康麻雀等を通じて、地域住民同士の絆を深め、地域コミュニティの活性化を図ります。

●冒険の遊び場の整備

子どもが自然でしなやかに振る舞え、冒険心をくすぐられる“遊びの場”＝「プレーパーク」を、区内各所でイベント的に開催することで、これからを担う子どもたちをサポートします。また、その開催を通じ、そうした事業に関心を持ち関与・補助する大人たちの育成や地域主体の活動の掘り起こしを進め、“遊び”の機会を支えようとする地域の絆づくりを推進します。

●花のまちづくり

種の採取や挿し芽などにより苗を増やし出来るだけ新たな種や苗を購入することなく、それらを増やすことで自らの活動に活用するとともに、他団体への提供や相互交換・地域行事で配布する等により団体の花づくり等に役立てる取組を支援することで、花のまちづくりを推進し、花と緑あふれる美しいまちづくりに取り組みます。

○子育て支援の充実

親同士、子ども同士の交流を深め、子育てに関する困りごとを地域が一体となって支え合うことのできるサポート環境を創出します。

白木地区

◆大学やNPO等と連携したまちづくりの推進

小中学校の活動や地域行事などで、大学（広島文教大学等）やNPO等を受け入れ、連携したまちづくり活動を進めることで、地域の活性化を図ります。

◆寺子屋学習塾を通じた小・中学校と大学生とのつながり、地域を担う人材の育成

白木中学校で開催している大学生等とのボランティアによる無料学習塾（寺子屋学習塾）に継続して取り組み、小・中学校と大学生とのつながりを深めつつ、学力アップにより地域を担う人材を育成することで、安心して子育てをすることができる環境を整えます。

◆地域が主体となった生活交通の確保策の導入検討

自宅からバス停までの往復が困難な交通弱者等を支援するため、町内会単位での高齢者交通支援ボランティアの立ち上げや自家用自動車による有償運送、乗り合いタクシーの導入など、地域が主体となった生活交通の確保策を検討します。

◆地域のだれもが集える「ひねもすようこそ」

地域の障害児者とその家族を支えるため、一時預かりやショートステイを行うほか、地域サロン事業や地域の困りごと支え合い事業を行います。

◇住む人に優しいまちづくりをPRするための映画祭の開催

これまでに地域で開催した障害者に関するドキュメンタリー作品の上映会を、社会福祉法人の高齢者施設やNPOの障害者施設等と連携し、JR芸備線沿線の施設や寺社等で「ドキュメンタリー映画祭」として開催することで、住む人に優しいまちづくりを目指します。

◆地域のお祭りや行事の開催の継続

地域の神社等で開催しているお祭りや行事を継続して開催することで、地域コミュニティの活性化を図り、地域のにぎわいを創出します。

◆しめ縄づくりを中心とした3世代の交流

自治会・子ども会・公民館等が連携して行う、しめ縄づくり交流を継続して開催し、高齢者から子どもまで3世代の交流を図りながら、地域の伝統を継承します。

高陽地区

◆「大人のかくれ家」をモデルとした交流活動の実施

口田地区の「大人のかくれ家」をモデルとして、他の地区の里山などにおいても、幅広い世代が交流できる活動拠点を住民自らが整備し、コンサートやプレーパークなど様々な交流活動を展開することで、住民間のつながりを深めるとともに、地域の魅力を内外に発信します。

◆『地域は丸ごと大家族』まちづくり事業

高齢者が気軽に集まり色々な悩み事などを互いに相談でき、お楽しみ会、簡単な運動ができる居場所を提供するなど、総合生活支援事業や空き家管理事業を行います。

◆もぎもぎ畑・交流プロジェクト

障害を持つ子どもとその家族が地域住民と交流しながら農作業を行い、豊かな自然の中で遊び場・居場所づくりに取り組みます。

◆空き家を生かした地域住民と外部の人たちの交流拠点づくり

地域にある空き家を修繕し、バリアフリー等の改修を行った上で、まちづくり関係の会議や講習会を開催するほか、まち歩きイベント等の休憩所として地域外の方にも使ってもらう拠点づくりを行います。

可部地区

◆古民家を利用した“まちづくり”事業

古民家を活用した多世代交流事業として、子育て支援や高齢者交流サロン等を実施し、地域における支え合いの仕組みづくりを行います。

◆セカンドステージ

気軽に立ち寄れる多世代交流サロンの開催や、生活支援が必要な高齢者への家事援助をはじめとした生活総合支援を行いながら、希薄になりつつある地域住民のつながりを強めます。

◆虹山県住グラウンドゴルフ

グラウンドゴルフを行い、リタイア世代や一人暮らしの人たちに他人と触れ合う機会をつくることで、健康の維持向上が可能となるほか、住民相互の意思疎通が向上し、地域の絆を強めることにつながります。

安佐地区

◆石釜を中心としたコミュニティ広場の活性化

コミュニティ広場として整備した鈴張小学校敷地内の石釜を活用し、ピザ作りやパン作りを通じて、コミュニティの活性化を図るとともに、子どもたちの思い出づくりを行います。

◆高齢者支え合い事業の推進

地域で高齢者を支え合う環境づくりをし、また、高齢者が参加したくなる自治会活動について検討します。

(3) 自然や歴史、伝統文化など地域資源を生かしたまちづくり

豊かな自然や歴史ある寺社・遺跡、神楽・和太鼓などの伝統芸能、きれいな地下水を利用した酒や醤油等の醸造業など、安佐北区ならではの地域資源を次世代に継承するとともに、これらの地域資源を生かしたまちづくりを進める。

アクションプラン

区全体

●可部連山トレイルラン in あさきたの開催

安佐北区の魅力である豊かな自然を活用した山岳走競技（トレイルラン）を開催して、全国から参加者を招くとともに、大会運営を通じて区内の各種団体の交流を促進し、地域の活性化を図ります。

●神楽などの伝統芸能の継承

安佐北区の伝統芸能である神楽団や劇団などの魅力や活動を広く市民にPRし、区内の神楽団体が一堂に会する「あさきた神楽発表会」を開催するなどして、区の文化資源である神楽や演劇といった伝統芸能の継承や興隆を図ります。

●広島北部地域市町観光連携事業

広島県北西部の4市町（広島市安佐北区、安芸高田市、安芸太田町、北広島町）で連携し、広く里山登山の魅力を発信するとともに、里山及び関係市町への関心を高め、里山登山による連携市町間の交流人口を増加させ、地域の活性化を図ります。

○JR可部線廃線敷の利活用

可部線廃線敷再生ビジョンに基づき、これまで可部線が担ってきた生活利便性の向上、地域振興、人々との交流促進などの役割を継承・再生するため、廃線敷や駅前広場の活用を検討します。

●観光ボランティアガイドの育成

地域の魅力を地域住民の声で伝える「観光ボランティアガイド」の養成講座を開催し、観光ガイドへの関心を呼び起こし、ガイドを行いたい人を増やすとともに、そのスキルアップに取り組み、地域外からの来訪者の受け入れ環境を整備し、おもてなしの向上を図ります。

白木地区

◆神ノ倉山公園を中心とした魅力の発信

地元住民が作り上げ大切に守り育ててきた神ノ倉山公園を、地元住民が主体となり維持管理を行い、桜・ふじ・つつじといった春の魅力を広くPRし、井原地区等における交流人口の増加を図ります。

◆スカイスポーツのまちとしてPR

スカイスポーツ（パラグライダー・ハンググライダー）の離着陸場を有する神ノ倉山・荒谷山周辺が日本有数のフライトエリアであることを都市部の住民にPRし、愛好家団体による大会や体験イベントの開催、ウェルカムパーティーによる来訪者へのおもてなしなどを通じて地域の活性化を図ります。

◆白木高校跡地の活用

廃校となった白木高校の跡地について、スポーツ活動以外の用途でも十分な活用が図られるよう、大学等の研修施設としての利用、児童館や運動公園の整備など、地元の声を反映した抜本的な活用策を検討します。

◆三篠川カヌー活動の推進

三篠川流域の各地域で子どもと大人を対象としたカヌー教室を開催し、青少年育成や交流を通じた地域の絆づくりを行います。

◆ふるさとの自然再発見

井原地区の豊かな自然環境を活用して、地域住民やこの地域に関心を持つ人々が気軽に楽しみ、地域の魅力を再発見するイベント「井原わくわくプロジェクト」を開催します。

◆河津川プロジェクト

耕作放棄地の活用による農業や古代米を使った藁細工の継承・販売を行うとともに、地元の名水の水汲み場を設置し、地区の名水として宣伝します。

◆白木北欧風PR&交流プロジェクト ノルディッシュ Nordischon

白木町やその周辺に住んでいる若年層が、自然あふれる地域資源を活用し、「北欧のような暮らし方を楽しむ」ことをテーマとした様々な体験型のイベントを行い、「北欧」をキーワードに街と里山をつなぎ、白木地区への移住促進を図ります。

◇JR芸備線志和口駅周辺の観光ルートマップの作成

JR芸備線志和口駅から鎌倉寺山、その周辺の史跡等を巡り、訪れた人の体力や観光時間に応じた様々なルートのある観光ルートマップを作成します。

高陽地区

◆十二神祇神楽こども教室

古くから伝承されている十二神祇神楽を子どもたちに伝えるためのこども教室を開催し、郷土に対する愛着への意識付けを図ります。

◆てくてく中郡古道プロジェクト

案内マップの作成・標識の設置や中郡古道沿線の見どころを紹介する史跡めぐりを開催し、中郡古道の魅力ある資源を広く周知します。

可部地区

◇福王寺を活用した地域の魅力発信

弘法大師が天長5年（828年）に開基したと伝えられる福王寺は、安芸の高野山と呼ばれる真言宗の古刹であり、その歴史や建造物は地域の財産であるため、令和10年（2028年）に迎える開基1200年に向けて地域の気運を高めるとともに地域外への魅力発信に取り組みます。

◆福王寺山登山道の整備

地域が主体となって、地域の交流の場、観光資源である福王寺山の登山道を清掃・整備することで、景観維持や地域コミュニティの活性化、観光地としての魅力向上を図ります。

◆山繭織の伝承

可部の伝統文化「可部山繭織」を研究し、小学校の総合学習や体験会などを通じた伝承などに取り組みます。

◆大林地区の魅力発信

大林地区の伝統芸能である「熊谷踊り」の継承や、当地区の名勝・旧跡等を巡る散策コースの作成、小学校と連携した郷土学習等を通じて、地区の魅力を内外にPRし、地域活性化を図ります。

◆大文字祭り、明神祭り、胡祭りを通じた伝統文化の継続

将来的に単位町内会での開催が危ぶまれることを考慮して、お互いの助け合いで、途切れることがないように協力体制を確立します。

◆JR可部線を利用した遺跡、神社、仏閣巡りの充実

町内の遺跡、神社、仏閣巡りのメニュー拡大のため、地域での掘り起こしに取り組みます。

◆可部旧街道の街並み保存とまちづくり

まちづくりに関心のある人で「空き家古民家応援隊」を編成し、古民家を軸にした落ち着いた街並みづくりを進め、可部旧街道沿いの古民家の現状把握と適切なマッチングを行う「可部古民家情報バンク」を通じて外部からの移住者を呼び込みます。

安佐地区

◆スポーツチームと連携したまちづくり

安佐町に拠点を持つ、コカ・コーラレッドスパークスホッケー部やJR西日本硬式野球部と連携したまちづくりを進めます。

◇安佐地区郷土遺跡探訪

新たに安佐町に住み着いた人々や子どもから大人まで、安佐町の歴史・遺跡を紹介し、それらを巡る史跡巡りを開催し、中世古道の魅力ある資源を発信します。

◇鈴張御堂さん35堂散策マップの作成

陰陽分水嶺のある明神峠の笹原明神をはじめ、現在確認されているだけでも35社以上ある御堂や祠を巡る散策マップを作成します。

◆登山道、遊歩道の整備

地域の山岳団体を中心に、地域が主体となって登山道の整備や、遊歩道の古くなった看板等の点検や整備、活用などを行います。

◇あさひが丘桜まつり（仮称）の拡充

あさひが丘団地内の公園に植えられ、地域の住民に親しまれてきたソメイヨシノを中心とした多くの桜を活用し、これまでより規模を大きく桜まつり（仮称）を開催することで、地域住民の交流の場とし、地区の活性化につなげます。

◆ホタルの再生

魚切橋周辺でホタルが再び生息できる環境作りを進めます。

◇棚田の保存と活用

安佐町各地に点在する棚田を地域の財産として保存し、その活用方法について、地域主体の組織を立ち上げ、検討します。

◆旧安芸飯室駅を拠点とした地域のにぎわいづくり

旧安芸飯室駅の待合所等を活用し、地元野菜の販売や丸木位里の作品パネル展示、イベントなどの開催を通じて、地域のにぎわいを創出し、地域コミュニティの活性化を図ります。

◇久地小学校跡施設の活用

小学校跡施設について、地域の「生きがいの場」や「安心の場」、地域内外からの「学び体験の場」や「遊び体験の場」などの活用方法を検討し、地域住民が一丸となって、地域づくりに取り組みます。

(4) みどりの恵みが実るまちづくり

農林業における多様な担い手の育成・支援や農業生産基盤の整備を進め、その振興を図るとともに、農地や里山などの地域資源を活用し、都市部の住民との交流、定住の促進など中山間地の活性化を図るまちづくりを進める。

アクションプラン

区全体

●実りの里づくり

活性化を目指す農村において、住民主体の活性化ビジョン策定や実践活動を支援し、地域住民が主体となり、農村に魅力を感じる都市部の住民や行政等が連携しながら過疎対策を進めることにより、多面的機能を有する農村の維持・発展を図ります。

●空き家を活用した移住者、就農者の支援

地域が中心となって空き家の掘り起こしを行い、空き家バンク制度として活用することで、I・Uターンや移住希望者、新規就農者へ住まいを提供し、中山間地域における定住の促進に取り組みます。

○農地中間管理事業（農地バンク制度）の推進

未活用農用地の有効活用を目的とし、高齢などを理由に農業をリタイアする農業者などの農用地を担い手に貸し付ける農地中間管理事業を推進します。

●有害鳥獣対策

有害鳥獣の生息数を減少させるため、町内会等が地域活動として行う有害鳥獣対策への支援など、新たな施策の検討を行います。

白木地区

◆農業体験活動や自然体験活動等の受入

井原地区などで農業体験や自然体験の受入を実施し、都市部の若者が地域の人々との交流を通じて白木町の自然や文化、生活、人々の魅力に触れる機会を提供します。

◆シャクヤクの里の活性化

桧山地区や正木地区で地元住民と都市部の住民が協働してシャクヤクの栽培や販売等に取り組み、シャクヤクを活用して地域の活性化を図ります。

◆芝桜による三篠川的美観向上

地元住民が芝桜を三篠川の土手に植え育てることで、三篠川沿いの景観を向上させ、都市部等の住民を井原地区や三田地区などに呼び込みます。

◆広島市の台所としての野菜作り事業の活性化

三田ショージでのふれあい朝市の開催やひろしま活力農業者との連携などに取り組み、野菜作り事業を展開します。

高陽地区

◆「狩留家なす」6次産業化の推進

地域ブランドの農産物の付加価値を高めるために、6次産業化に向けた活動を行っていくとともに、狩留家なすの加工品の試作、その他の地元産品の加工食品化に取り組みます。

可部地区

◆『酒』から始める大林復興！地域元気プロジェクト

平成26年8月豪雨災害により被災し、休耕田となっている大林地区の田で、自然や文化に触れるイベントに絡め酒米づくりを行い、地区のPRや世代間交流、都市部と中山間地域の交流を推進します。

◆健康長寿の間伐材脳トレキット開発事業

山中に伐採されたままになっている間伐材を地域の間伐「財」として再生することにより、大林地区の再興に寄与します。さらに、健康長寿をキーワードに、「脳トレキット（木工玩具等）」の開発や里山保全の体験会の開催など様々な事業を展開し、都市部から人を呼び込み交流することで、地域の活性化を図ります。

安佐地区

◇木材利用の促進

森林資源が豊富な安佐町の活性化に欠かせない木材の有効利用を検討し、利用促進を図るとともに、広く一般にもPRします。

◇スマート農業の研究と構築

人口減少や過疎化による田畑の荒廃を防ぎ、高齢化による農作業の軽減を図るため、ドローンを活用したスマート農業の展開に取り組みます。

◆農地や里山を活用した児童や学生の学びの場

農作業体験や田舎暮らし体験といった都市農村交流イベントの開催などを通じて、中山間地域へ若者を学び・体験の場として呼び込み、地域住民と都市部の若者が交流することで相互に刺激し合いながら、中山間地域の活性化を目指します。

(5) 安全で災害に強いまちづくり

自然災害の起きやすい地理的条件や、異常気象に起因する自然災害が多発している状況を踏まえ、関係行政機関や住民と一体となって、安全で安心して暮らせる災害に強いまちづくりを進める。

アクションプラン

区全体

●災害に強いコミュニティ“あさきた”をつくろう

平成31年(2019年)に作成した若者の新たな発想や視点を盛り込んだ防災教育プログラムを活用し、若者と住民の交流による防災研修や防災出前講座を行うことで継続的に地域の防災力を向上させ、災害に強い“あさきた”を目指します。

●わがまち防災マップの作成や避難訓練の実施

防災リーダーが中心となって「わがまち防災マップ」の作成を進めるとともに、台風や豪雨、地震など様々な事象を想定し、その災害に応じた効果的な防災訓練を官民が一体となって実施するなど、地域における防災対策の推進を図ります。

●防災ライブカメラの活用

土砂災害や洪水の発生したところのある場所や、地域で把握している危険な場所にカメラを設置することで、荒天時には自宅等の安全な場所から、それらの場所の状況をリアルタイムで確認し、避難情報が発令されている際は、早めの避難を心掛けます。

●こいこいキャラバンの実施

平成26年(2014年)8月及び平成30年(2018年)7月の二度の豪雨災害により被災した安佐北区で、今まで防災訓練等への参加が少なかった若い世代に、防災体験やカードゲーム等を活用しながら防災知識を身に付けてもらい、正しい防災知識を持った区民を増加させ、将来に渡って「災害に強い安佐北区」の実現を目指します。

○地域課題の解決に向けた協議体の設置の検討

地域として災害対策等を検討するに当たり、町内会等の地域団体の役員に高齢者が多いため、世代のバランスを考慮し、幅広い世代や多種多様な人材の声が反映できる協議体の設置を検討します。

○里山林整備の促進

豪雨による土砂災害を防ぎ、イノシシやクマ等による獣害をなくすため、市の土砂流出防止林整備事業や里山林再生整備事業を活用し、集落周辺の里山林を人が住みやすい環境へと整備します。

●防犯カメラの設置の推進

市の防犯カメラ設置費補助金を活用し、町内会や自治会による自主的な防犯活動に取り組みます。また、町内会や自治会等へ補助制度を周知し、啓発します。

●街路灯の設置の推進

市の街路灯設置費補助金や維持補修費補助金を活用して街路灯を増やし、街を明るくすることで、夜間における犯罪の発生を防止し、加えて公衆の交通の安全を図ります。

可部地区

◆新建団地ポータルサイトの運営

平成26年8月豪雨災害を教訓に、災害時の安否確認システムの構築や、雨量計データをメールで送信する等、地域ポータルサイトの充実を図り、実際に当システムを利用した避難訓練を継続して実施します。

◆三入まち物語による地域の魅力再発見と継承プロジェクト

三入地区に伝わる民話、昔話を掘り起こし、地元の小学校と連携して絵画コンクールを行い、絵本を製作して頒布・販売することで、地域の愛着心を醸成します。また、民話に現れる災害や平成26年8月豪雨災害の歴史を後世に継承し、災害に対する意識啓発を行います。

◆学生出張カフェプロジェクト

区内在住の大学生が中心となり、平成26年8月豪雨災害の被災地で出張カフェ「にじカフェ」を開催し、被災者に寄り添いながら、学生の部活動や特技発表会等を行い、心のケアにつなげます。